

皆さん、明けましておめでとうございます。

皆さん、それぞれ良い年をお迎えになったことと思います。また、今朝は滅多にない日本晴れで仕事始めを迎えることができ、大変うれしいことでもあります。

ただ、年末から年始の天気はあまりよくありませんでした。それでも、三が日は、時々、晴れて日の差すこともあり、そういう時は私も散歩に出かけたり、近所の神社などに初詣に出かけたりしました。皆さんも同じであったと思います。

当たり前のことですが、天気は、経済や人間に大きな影響を及ぼすものだなあというふうに感ずる次第であります。天気が悪いと、人は家の中にこもって活動も不活発になります。経済も同じであります。経済の天気が悪い、つまり先行きが暗いと経済活動も不活発となり停滞をするのです。

今年の経済の先行き、いわば経済の天気を予測しますと、やはり昨年同様に、かなり厳しいものではないかと思うのであります。

年頭の地方紙の報道を見ますと、山陰両県の企業、300社弱くらいの方々にアンケート調査をしたという記事がありました。

「今年の自社の業況はどうか」という質問に対して、「今年は悪くなる」と回答された方が45%だったとのことでもあります。昨年と同じ時期に行ったアンケートよりは少し下がっているようですが、大変厳しい状況が続いているということでもあります。

一昨年の世界景気の後退の影響が、この島根にも及び、昨年後半にかけては底を打ったという感じも出てまいりましたが、経済の停滞と落ち込みが始まる前の状況と比べますと回復はまだまだでありまして、その影響が重くのしかかっているということではないかと思えます。

そういう意味におきまして、本年も昨年に引き続き、我々にとって、県庁にとって、県民の方々にとって、最も大事な課題は、しっかりとした経済回復を

図るように努めていくことだと思います。

こうした中で、国の方も、年末の予算編成におきまして、急きょ、大型の補正予算を組みまして景気対策を行う、あるいは子供手当などを創設する、あるいは地方に対しましては、地方財源を確保するなど、財政が非常に厳しい中で、景気にも配慮した対策をとるようになってきていると思います。

その中で残念でありましたのは、道路・河川などの社会インフラの整備のための予算が大幅に削減されたことであります。やはり、地方が自立するためには、基礎的なインフラというものは、日本中、どこでもある程度、公平に整備される必要があるというのが私どもの考えであり、この点につきましては、引き続き、国に対して理解を求めていく必要があると考えております。

また、現在の経済の状況を鑑みますと、県の単独事業を活用することなどにより、積極的な対応を図っていくことが県として必要であると思っております。

今日は仕事始めで、これから2月議会に向けまして、予算の編成作業も本格化してまいるわけです。私は、こうした厳しい経済状況ですから、昨年と同様、追加補正予算を編成いたしまして、この補正予算と来年度当初予算と合わせまして切れ目のない景気・雇用対策を行っていきたいと考えております。

勿論、景気・雇用対策の他にもいろいろやるべきことはあります。年末の予算編成の過程で与野党の協議の結果、我々の大きな念願であった過疎法の延長が大体、本決まりになったようであります。

我々が主張しておりました医療、交通、教育などソフト事業対策も過疎法の延長の中に盛り込まれているという形になっておりますから、県としてもこうしたものを勘案しながら、中山間地域対策を考えていかなければなりません。

また、ご承知のように、農業政策が大きく転換しようとしております。これにつきましても、この新しい事態にどう対処するか、関係の方々のご意見などをよくお聞きしながら対応を考えていかなければなりません。

産業振興、観光振興、農業振興などは、やはり景気対策ということだけでなく、中長期的にしっかりした対策を積み重ねていくことが大事であります。

中小企業の方々に対する対策もそうであります。中小企業の方々の技術水準が上がる、あるいは、新商品開発の力がついてくる、こういうことにも支援をしていかなければなりません。

地域医療の確保も非常に厳しい状況にあります。去年は国の助成措置もありまして、県は地域医療の再生計画を作成しました。これを着実に実施していかなければなりません。勿論このほかに、福祉、介護、障害者の方々の対策、あるいは新型インフルエンザ対策も引き続き、気を許すことのできない作業であります。

昨年末には、本当に悲惨な目にお会いになった平岡都さんの事件の後、県民会議を立ち上げ「犯罪のない社会を実現するための行動計画」を決定しました。これも本年は着実に実行していかなければなりません。

この他にも、環境の保護でありますとか、教育、文化等々いろいろ分野で多くの課題を抱えております。

去年は、同様に厳しい状況でありましたが、計画を作り、施策を企画立案する皆さん、あるいは現場でそうしたものに基づいて実施にあたる皆さん、それぞれが粘り強く頑張っていたいただき、奮闘していただきました。その結果、去年は多くの課題にある程度、対応することができたと思います。

今年、我々の目の前にあります多くの課題を勘案しますと、一段と気を引き締めて、県庁一丸となって県民の方々のために全力を上げて取り組んでいく必要があります。

そういう意味におきまして、“本年も、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。”

このことをお願い申し上げます、私の年頭の挨拶といたします。